

としょかん生活

すべての町民の暮らしを応援します

●編集・発行／佐用町立図書館（さよう文化情報センター内）

〒679-5301 佐用郡佐用町佐用 2585 番地

開館時間10:00～18:00

Tel: 0790-82-0874 Fax: 0790-82-0313

E-Mail: toshokan@town.sayo.lg.jp

『1年で潰れると言われた野球部が

北国のビニールハウスから甲子園に行った話』

原田 一範／著（幻冬舎）2025年

Book Review

図書館司書おすすめの一冊

校長から「野球に力を入れるつもりなら、あなたのような無名の人を監督に呼ばない」と言われ、ようやく集めた10名の部員のうち半分は未経験者。グラウンドは12月から3月まで雪で覆われている。そんな学校で野球部顧問と事務職員の兼任で採用された著者が12年かけてチームを甲子園に導いたノンフィクション。

最後の高校野球県大会が自分のエラーであっけなく終わったことから、野球から離れられず母校でコーチを続けていた著者のもとに、2001年春に共学化する弘前学院聖愛高等学校で新設される野球部の顧問を探しているという話が舞い込んだ。恩師や家族の勧めもあり引き受けるが、練習をする環境も整っておらず、野球部になんの期待もされていない悲慘な現状だった。

逆境を打破するためのスパルタ指導が原因で、選手や保護者たちと衝突した著者は謹慎処分を受けてしまう。そこで立ち止まり、監督からの一方的な指導ではなく、選手の自主性を重んじることがチームを成長させると考えなおす。常識にとらわれず、様々なスポーツ指導者や実業家、経営者に教えを請い、新しい考えをどんどん取り入れた。そして選手には「野球しかできない人間になるな」と徹底した生活指導を行い、学校行事や勉強を優先させ、長期休暇にはアルバイトを経験させるなど、人間性を育てることに注力し、野球部は柔軟で芯の太いチームとなった。

弘前学院聖愛高等学校野球部は2013年から3度の甲子園出場を叶えている。試合の「勝ち」より選手の人間的な「価値」の向上を目指す原田監督の指導は、どんな読者にも学びとなる。野球に詳しくない人にもお勧めできる一冊。（秋山）

図書館カレンダー

11月 《霜月》

日	月	火	水	木	金	土
						1 ○
2 ◇○	3 文庫の日	4	5	6	7	8 ○
9 ○	10	11	12	13	14	15 ○
16 ○	17	18	19	20	21 ◆	22 ○
23	24	25	26	27	28	29 ○
30 ★○	■の日は休館日です。					

12月 《師走》

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 ○
7 ○	8	9	10	11	12	13 ○
14 ○	15	16	17	18	19	20 ○
21 ★	22	23	24	25	26	27 ○
28	29	30	31	1/1	1/2	1/3

○印…おはなし会（あそびせ隊）14:00～

◎印…えほんの会（図書館職員）10:30～

おはなし会（図書館職員）11:00～

★印…クリスマス行事

お知らせ

クリスマスツリーをかざろう

・11月30日(日)・11:30～

申し込み不要

クリスマスのおはなし会&工作

・12月21日(日)・10:30～

対象:5歳～小学生

要申込



年末特別貸出

・12月14日(日)～27日(土)

年末年始休館のため、上記期間中は貸出冊数の上限をなくし、貸出期間を4週間とします。

◇印…小学生一日図書館員

◆印…秋の読書会 10:30～

絵本

『にぐるまひいて』

ドナルド・ホール／ぶん
バーバラ・クーニー／え
もき かずこ／やく
(ほるぷ出版) 1980年

10月、父さんは荷車に牛をつなぎ、この一年間家族で作ってたものを全て荷車に積み込む。父さんが刈り取った羊の毛を詰めた袋、羊の毛を母さんが紡いで織ったショール、母さんが紡いだ糸で娘が編んだ指なし手袋、みんなで作ったろうそく、亜麻から育て仕上げたリンネル、息子が作ったしらかばの箒に、じゃがいも、りんご、がちょうの羽など…。

荷車がいっぱいになると父さんは牛を引いて丘をこえ、谷をぬけ、小川をたどり、農場や村をいくつも過ぎて、10日かかりでポーツマス市場へ行った。そこで積み込んだ荷物を全て売り、空になった荷車と牛も売った。手に入れたお金で鉄の鍋と、娘の刺しゅう針、息子のバーロウナイフ、みんなのためにはっかキャンディを2ポンド買って、家族が待つ家に歩いて帰った。冬の間、父さんは新しいくびきを削り、荷車の板を引いて屋根板を切り出し、母さんは亜麻をリンネルに仕上げ、娘はリンネルに刺しゅうをし、息子はしらかばの箒を作り、みんなでろうそくを作る。そして3月には楓の樹液を煮詰めて楓砂糖を作り、4月には羊の毛を刈り取り糸に紡いで織り物や編み物を、5月にはみんなで畑を耕す――。

巡っていく季節の中、自然とともに暮らす家族の営みが穏やかに語られた叙情的な物語。19世紀初めのアメリカ、ニューイングランド地方を描いた絵は温かみがあり、どこか懐かしさを感じさせる。(松本)

児童書

『リンゴの木の上の

おばあさん』

ミラ・ローベ／作 塩谷 太郎／訳
(岩波書店) 2013年

おばあさんのいないアンディは、友達からおばあさんとメリーゴーランドに乗りに行くことや、アメリカからトランクいっぱいのおもちゃを持って来てくれる話を聞くと、うらやましくてたまりません。お母さんに話をすると、白い巻き毛で、羽根飾りのついた帽子をかぶり、花の刺しゅうのついた大きな手さげをさげ、流行おくれの長い服を着た古いおばあさんの写真を見せられました。その後、いつものように庭のリンゴの木に登ると、写真で見たアンディのおばあさんがいて、一緒に遊園地に行こうと誘ってくれ、遊んだあと急に消えてしまいました。別の日も、リンゴの木に登るとおばあさんが現れ、一緒に草原に行って野馬を捕まえたり、海賊のいる大海へと出帆したりしました。

そんなある日、隣の家の屋根裏に、フィンクおばあさんが引っ越してきました。アンディは、リュウマチで手足が痛むフィンクおばあさんの片づけを手伝ってあげました。それから、頼まれた買い物に行ったり、ジャガイモでお昼ご飯を作ったりしてフィンクおばあさんの所へ行くことが増えていきました。そして、アンディが、フィンクおばあさんに、自分で考えだしたリンゴの木のおばあさんと冒険をしている話をすると、フィンクおばあさんは、リュウマチで助けてもらわないといけないおばあさんと、リンゴの木の上にいておもしろいことをして遊んでくれるおばあさんがいてもいいと、言ってくれました。

おばあさんがいなかったアンディが、空想と現実を楽しみながら、2人のおばあさんができて喜ぶ姿に満足します。(馬場)

☆☆☆☆☆ information ☆☆☆☆☆

詳しくは図書館まで

佐用町合併20周年記念事業

●11/15(土)～12/27(土)さよう今昔写真展

お寄せいただいた「佐用町の昔の写真」を展示します(入替あり)

- ・時館 10:00～18:00(図書館開館時間)
- ・場所 図書館内

●11/21(金)秋の読書会

『ソウルメイト』馳星周/著(集英社)を読んで話しましょう

- ・時館 10:30～正午
- ・場所 さよう文化情報センター リハーサル室
- ・定員 先着10名(要申込・無料) ・申込締切 11月14日(金)

おはなし会

★あそびせ隊 おはなし会

- ・幼児・小学生と保護者
- ・毎週土曜日/14:00～14:30

★えほんの会

- ・2～4歳と保護者 ・毎週日曜日/10:30～11:00
- 11月のえほん 『いちじくになじん』など

★おはなし会

- ・5歳～小学生 ・毎週日曜日/11:00～11:30
- 11月のおはなし
「王子さまの耳は、ロバの耳」

※いずれも図書館おはなしコーナー 申し込み不要